

# 環境基本計画について

令和3年12月  
島田市

1

## 環境基本計画の4つの分野（仮）

（ ）内は前回のみなさんからのご意見から引用

### 1 持続可能なまち

（エネルギーの自給自足、エネルギーを少なく使う暮らし、環境にやさしい行動）

### 2 循環型のまち

（地産地消、生ごみ堆肥、様々な資源を共有、環境負荷がかかるものは作らない）

### 3 自然豊かなまち

（緑豊か、行きたくなる山・川、自然体験ゾーン、庭にたくさんの植木や花がある）

### 4 暮らしやすいまち

（騒音なし、悪臭なし、景観が良い、車を使用しない地区、地域とのつながり、生活の質の豊かさ）

2

# 施策ツリーをみてみましょう

前はどんな話題があった？ →配布資料参照

## 1 持続可能なまち

→エネルギー・環境配慮行動、産業・都市計画×環境、環境に関する活動・行動促進

## 2 循環型のまち

→ごみの減量・資源循環、地産地消（農業・土地）

## 3 自然豊かなまち

→自然・公園に親しむ、自然を守る・緑化

## 4 暮らしやすいまち

→公害がなくきれいなまち、歴史・文化環境と景観

3

# 環境に関する現況

## ■ 社会情勢や環境の変化

### ■人口減少・超高齢社会の到来

- ・日本の総人口は2008（平成20）年の1億2,808万人をピークに減少へ
- ・高齢化率は2017（平成29）年に過去最高の27.7%となり、さらに2050（令和32）年には4割弱にまで達する見込み

### ■パリ協定の発効

- ・2015（平成27）年12月に地球温暖化対策の新たな枠組みとして「パリ協定」が採択（2016（平成28）年11月4日に発効、日本は同月8日に批准）。

主なポイント

- ①産業革命前からの気温上昇を2°C未満にする（1.5°Cに抑えるよう努力する）
- ②今世紀後半に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする
- ③全ての国が温室効果ガスの排出削減に取り組み、その内容を報告する

4

# 環境に関する現況

## 社会情勢や環境の変化

■SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組

・2015（平成27）年9月に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030 アジェンダ」は、世界全体の経済・社会・環境を調和させる統合的取組として作成され、その中に「SDGs（持続可能な開発目標）」として17のゴールと169のターゲットが掲げられた



# 環境に関する現況

## 社会情勢や環境の変化

■国の「第五次環境基本計画」の閣議決定

・「第五次環境基本計画」が2018（平成30）年4月に閣議決定

→SDGs（持続可能な開発目標）の考え方も活用しながら、イノベーションの創出や経済・社会的課題の「同時解決」の実現を図る

→各地域の資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮される「地域循環共生圏」という考え方が提唱された



# 環境に関する現況

## ■ 社会情勢や環境の変化

### ■ 気候変動適応法の施行と気候変動適応計画の閣議決定

・近年の猛暑や台風、集中豪雨による自然災害の多発など、気候変動による影響に適応していくため、2018（平成30）年12月に「気候変動適応法」が施行され、同法第7条に基づく「気候変動適応計画」が同年11月に閣議決定

・農業、森林・林業、水産業、水環境・水資源、自然生態系、自然災害・沿岸域、健康、産業・経済活動、国民生活・都市生活などの分野ごとに施策が掲載

・地方公共団体にも地域特性に基づく「地域気候変動適応計画」の策定が規定された

# 環境に関する現況

## ■ 社会情勢や環境の変化

### ■ プラスチックごみや食品ロスへの対応

・国「プラスチック資源循環戦略」2019（令和元）年5月策定

→近年のマイクロプラスチックをはじめとするプラスチックごみの流出による海洋汚染問題などに対応する

→2030（令和12）年までに、使い捨てのプラスチック（容器包装等）を25%排出抑制する

・「食品ロスの削減の推進に関する法律」2019（令和元）年10月施行

→まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスについて、地方公共団体が国の基本方針を踏まえて削減推進計画を策定・実施することや、企業や消費者の役割を定めた

# 環境に関する現況

## 社会情勢や環境の変化

### 2050年カーボンニュートラル宣言

・2020（令和2）年10月菅総理大臣の所信表明演説  
 「我が国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言いたします」

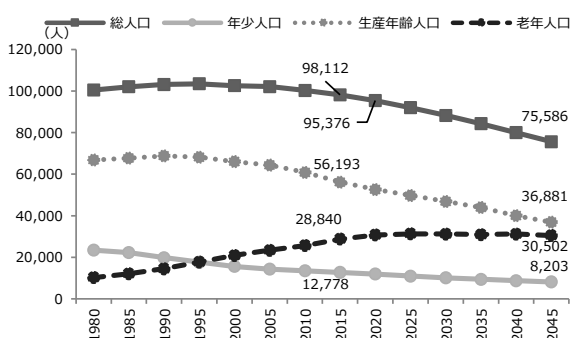
### 2030年度の削減目標の引き上げ

・2021（令和3）年4月地球温暖化対策推進本部  
 2030（令和12）年までに2013（平成25）年度比46%削減  
 さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける

温室効果ガス 排出量	2030目標 (2013年比)	2050目標
国全体	▲46%	実質ゼロ
家庭	▲66%	実質ゼロ

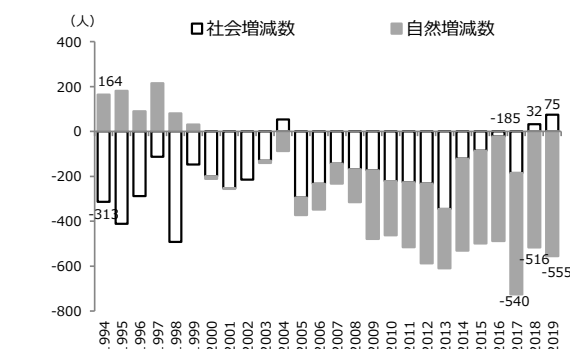
# 環境に関する現況

## 島田市の概況



### 総人口

- ・近年減少傾向
- ・年少人口（0～14歳）と老年人口（65歳以上人口）を比べると、2000年から老年人口の数が年少人口を上回る
- ・環境活動の担い手でも将来、人手不足や高齢化が心配される

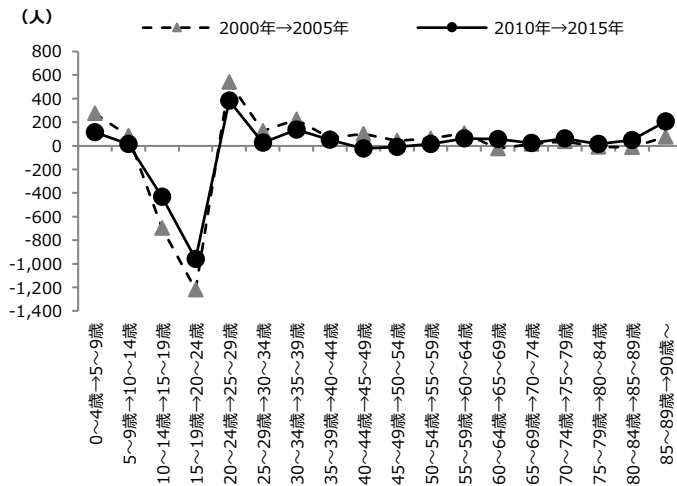


### 社会増減（島田市への転入と島田市から転出の差）と自然増減（生まれた人数と亡くなった人数との差）

- ・自然増減では減少傾向
- ・社会増減では近年増加
- ・新たな島田市民にも豊かな環境に関心を持っていただければ

# 環境に関する現況

## ■ 島田市の概況



### ■ 人口の年齢別の増減

・ 2000年から2005年の増減では、10歳代が市外に出て人口減少

・ 2010年から2015年の増減になると、市外に出る数がやや減っているほか、20歳代の増加数がやや大きい

・ 今後も住みよい環境づくりに努めることが大切

# 環境に関する現況

## 1 持続可能なまち

### ■ 島田市の状況（令和2年度）

#### 【地球温暖化対策】

- ・ 市役所の令和2年度の温室効果ガスの排出量は28,480 t（二酸化炭素換算）であり、平成25年度比17.1%削減
- ・ 市全体の平成29年度の温室効果ガスの排出量は908,944 t（二酸化炭素換算）であり、平成25年度比10.3%削減

#### 【省エネルギー】

- ・ 市役所のエネルギー使用量（原油換算）は、対前年度比4.7%減
- ・ 新庁舎建設において、ゼロエネルギー化や省エネ機器の導入を検討した
- ・ 自治会等が省エネ型照明器具による防犯灯に変換するための経費、新規設置にあたり補助金を697灯（新規11灯含む）分交付

#### 【新エネルギー・再生可能エネルギー】

- ・ ごみ焼却施設の廃熱から発電し、施設で自家消費し、余剰電力は売電（発電量は前年度比101.98%）
- ・ 蓄電池67件、エネファーム6件について補助金を交付

# 環境に関する現況

## 1 持続可能なまち

### ■島田市の状況（令和元年度）

#### 【低炭素型まちづくり】

- ・川根温泉ホテルにEVスタンド（急速充電器）を設置し、537件の利用で年々増加している。
- ・バスマップ（時刻表）の各戸回覧・各施設での配布を行い、路線の時刻・運行形態の周知により、公共交通の利用促進を図った。

#### 【環境教育・環境学習】

- ・豊かな自然を活用した体験教室として、サタデーオープンスクールを25日、サマーオープンスクールを5日、移動教室を11日開催した。
- ・環境人材バンクへの新規講師登録が1件、講師派遣が1件あった（地球温暖化防止についての講義を島田第三小学校にて）。

#### 【環境情報】

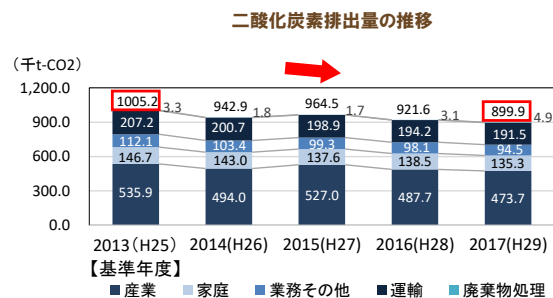
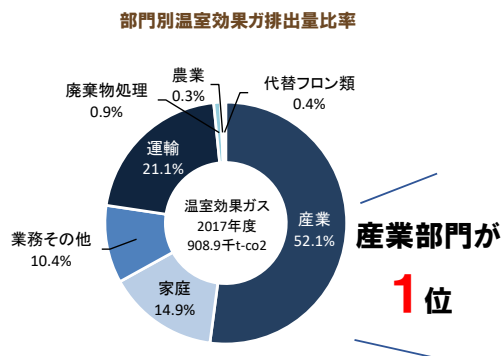
- ・市民・事業者の環境保全活動を「しまだエコ活動」として10団体20活動を登録し、環境保全に関する情報を収集した。

# 環境データの一部紹介

※詳しくは前回配付の島田市データBookをご覧ください

## 1 持続可能なまち

### ■島田市が排出している二酸化炭素（部門別）（2017（平成29）年）





# 環境に関する現況

## 2 循環型のまち

### ■ 島田市の状況（令和元年度）

#### 【3Rでごみ減量】

※3R：リデュース（Reduce：買う量、使う量を減らし、ごみを減らす）  
リユース（Reuse：ごみに出す前に再使用の方法を考える）  
リサイクル（Recycle：再資源化に協力する）

- ・リデュース：マイグッズ運動（マイバッグ、マイボトル、マイカップ、マイ箸など）について啓発を図った。
- ・リユース：生活用品バンクの利用促進を図り、「譲ります」は111件、「譲ってください」122件登録され、成立は50件だった。
- ・リサイクル：定期的な回収により、古紙493t、ペットボトル185t、白色トレイ12t、紙パック213tを回収し、資源化を図った。また、各家庭から7,250リットルの廃食用油を回収した。生ごみ処理容器として、コンポスト7台、生ごみ処理容器7台、キエーロ14台、その他2台の計30台に対し補助金を交付した。

15

# 環境に関する現況

## 2 循環型のまち

### ■ 島田市の状況（令和元年度）

#### 【分別収集の啓発】

- ・ごみ収集カレンダーを38,000部作成し、各戸配布した。

#### 【ごみのないまち】

- ・年5回の不法投棄パトロールの実施（初倉地区、金谷地区、島田東部地区、島田西部地区、川根地区）。
- ・市内一斉環境美化活動（川ざらい）を4月に実施し、78町内会が参加、河川等の清掃作業が行われた。

#### 【グリーン購入・地産地消】

- ・市役所の物品購入の対象品目の99.6%をグリーン購入で調達した。
- ・まんさいかんや川根温泉道の駅の販売店、やまゆり、ジャパンバザールなどで地場産物の販売を行った。
- ・学校給食で地場産物使用量を重量、品目共に40%を目指しており、島田市産は重量42.84%、品目34.69%となっている。

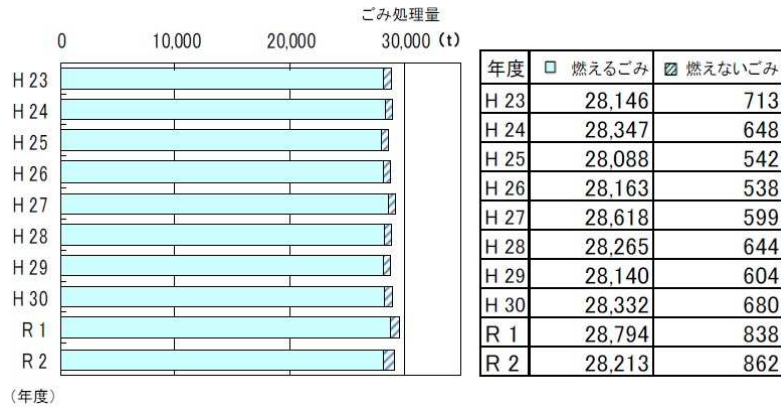
16



# 環境データの一部紹介

※詳しくは前回配付の島田市データBookをご覧ください

## 2 循環型のまち



17

# 環境に関する現況

## 3 自然豊かなまち

### ■ 島田市の状況 (令和元年度)

#### 【川・水】

- ・湯日川水系流域委員会で、流域の将来像や河川整備のあり方を検討
- ・大井川の現状観察会(源流部 10月)と大井川を知る総合学習(7校 10月・11月)を実施

#### 【森林】

- ・森林の維持管理のため、直接支援事業で間伐31.37ha、作業道2,074m等について補助金の交付を行った。
- ・間伐材の運び出しに補助金の交付を行った(1,203m<sup>3</sup>分)。

#### 【農地】

- ・荒廃農地の再生で東光寺地区と神座地区で2件実施(47.5a)。
- ・世界農業遺産「静岡の茶草場農法」に関するPRや農法の維持・継承

18

# 環境に関する現況

## 3 自然豊かなまち

■ 島田市の状況（令和元年度）

### 【公園】

- ・ 47団体、延べ5,685人が公園愛護活動を行った（公園の清掃、除草等）。
- ・ E M菌を用いた野森の池の水質浄化、水質検査を行った。渡り鳥の飛来、アオコ発生回数の激減、悪臭の緩和などの効果が現れてきた。

※ E M菌：Effective（有用な）Microorganisms（微生物たち）の英文の頭文字に由来。乳酸菌や酵母、光合成細菌など、どこにでもいる微生物で、人間にとっていい働きをしてくれる微生物の集まり。

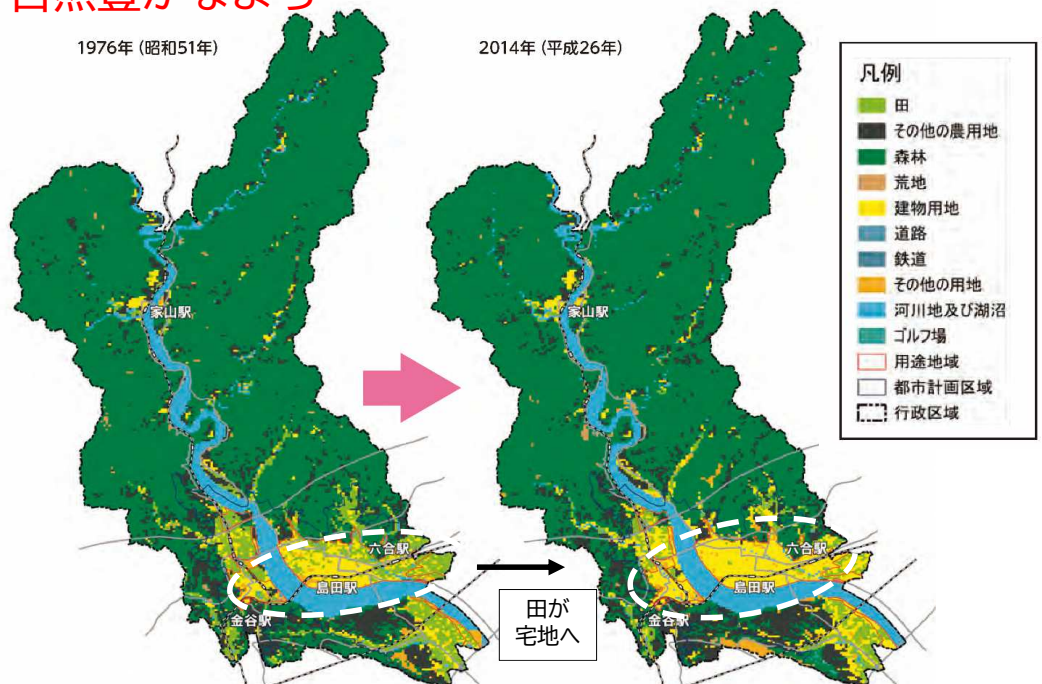
### 【野生動植物】

- ・ 農林産物に被害を与える野生鳥獣に対して、防護柵やわな等の設置に要する経費の1/2以内の補助金の交付（105件）。
- ・ 特定外来生物に関する情報を収集し、啓発を図った。

# 環境データの一部紹介

※詳しくは前回配付の島田市データBookをご覧ください

## 3 自然豊かなまち



# 環境に関する現況

## 4 暮らしやすいまち

### ■島田市の状況（令和2年度）

#### 【公害対策】

・公害苦情（実績は次のスライド）に対応し、立ち入り調査を実施した。

#### 【水質】

・水洗し尿と生活雑排水を一緒に処理する合併処理浄化槽の設置に補助金の交付を行った（350件）。

#### 【大気】

・市内3か所（市役所、初倉小学校、六合小学校）で大気汚染物質の常時監視測定を実施。結果は基準値内。

#### 【騒音】

・自動車や航空機の騒音を測定。結果は基準値内または協定に定めた値の範囲内。

#### 【有害化学物質対策】

・市内地下水7か所の塩素系有機溶剤調査を実施。結果は基準値内。

21

## 環境データの一部紹介

※詳しくは前回配付の島田市データBookをご覧ください

## 4 暮らしやすいまち

過去5年間の公害苦情件数

年度	合計件数	典型7公害							その他
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	
H28	29	18	2	0	6	1	0	2	0
H29	46	16	4	0	19	0	0	6	1
H30	47	17	8	0	16	0	0	6	0
R1	23	6	2	0	11	0	0	4	0
R2	18	9	0	0	7	0	0	2	0

公害は、典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）と、それ以外の公害（日照障害、通風障害、電波障害など）とに分けられます。

本市における公害苦情は、大気汚染、騒音、水質汚濁、悪臭が主となっています。

基準に適合しない焼却炉での焼却や、地焼き・ドラム缶等を使用した焼却行為（いわゆる「野焼き」）から発生するばい煙による大気汚染に関する苦情や騒音の苦情が多く、令和2年度では、野焼きに関する苦情は8件、騒音に関する苦情7件ありました。ただし、匿名の苦情が多く、電話相談だけであったり、現場確認をしたものの発生源を特定できず解決に繋がらなかったりしたものも多く、集計に含まれていないものも多くあります。相談などの軽易な苦情を含めると野焼きに関しては20件、騒音に関しては13件、悪臭に関しては14件の苦情・相談等がありました。

22